

【高等学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	自律精神の育成の面では、欠席、遅刻の増加が目立った。多様な問題を抱える本校生徒に対し、教職員との信頼関係を構築し根強く指導することやスクールカウンセラーを有効に活用することで、いじめ問題の未然防止・早期解決を含め、問題解決につなげたい。基礎学力の定着については、青翔タイムの活用や週末課題等で学力の向上を図ってきたが、十分な成果が得られていない。少人数指導におけるきめ細やかな指導を継続しつつ指導法の改善など教師の指導力の向上が求められる。キャリア教育は学年ごとに充実しており、進路指導においても面接指導を中心に全職員が協力しきめ細やかな指導を行う体制が確立できている。各系列の授業が進路選択やキャリア教育の推進つながらよう今後も工夫を重ねるとともに、生徒が主体的に目標に取り組む進路指導を実践していきたい。地域連携では、小学校との交流、介護実習やインターンシップ、商品開発や釜山外国語大学との交流、名護屋城博物館等での校外学習などの教育活動を実践した。広報・情宣活動の充実が課題であり、次年度は積極的に展開していきたい。
2 学校教育目標	「確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育み、自主と自立の精神を養い、高い志を持って地域社会に貢献する人材を育成する。」 校訓『自律・挑戦・感謝』の精神で心と体を成長させ、大空（社会）に羽ばたいていく生徒を育成する。
3 本年度の重点目標	学校スローガン『青翔魂！昨日の自分を超えていけ！』を合言葉に、 ①地域に愛され、地域に信頼される。 ②志を持ち、夢の実現のためにベストを尽くす。 ③失敗を恐れずチャレンジする。 ④自分と他人を愛する。 ⑤綺麗で安心な学校をみんなで作る。 を、生徒と教師がともに目指し、元気で明るい学校をつくる。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ○自己肯定感の醸成	○学校評価アンケートで「豊かな心を身に付ける教育活動が行われている」と回答する割合を80%以上(生徒・保護者・職員)にする。 ○「いじめの早期発見に努め、「いじめを許さない」「いじめを見逃さない」学校づくりが行われている」と回答した教員が90%以上にする。 ○学校評価アンケートで「部活動や生徒会活動など活発である」と回答する生徒を80%以上にする。	・HR活動などで、道徳心を養うような講話やDVDなどを用い、生徒に分かりやすい指導方法を考える。 ・教師側がしっかりと知識と共通理解を持って生徒へ対応するため、研修会を設け指導力を高める。 ・年に3回以上、学校生活アンケートを実施して、いじめの早期発見に努める。 ・全校集会や担任等を通して、いじめ問題やSNS・ライン等の適切な利用について指導する。 ・3年生引退後、部活動体験入部の期間を設けて新入部員を再度募集し、部活動加入率を上げる。 ・毎月、各部活動の試合や大会の日程をホールに掲示し、全校生徒の目に触れるようにする。入賞した場合は全校表彰をする。							教務(道徳教育等) 生徒指導部 生徒会
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を育成していく(あたり、朝食をきちんととっている生徒の割合を80%以上にする。	・保健だよりや食育だより、青翔ニュースなどをとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高める。							保健部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各担当分掌や係で業務や会議の縮減を図る。 ・定時退勤日を確実に実践し、職員一人一人が日常業務におけるタイムマネジメントを行い、業務改善の意識を高める。							教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○地域との連携(地域と連携した教育活動と広報活動の充実)	○商品開発や介護実習などを更に充実させ、広報に努め、イメージアップを目指す。生徒が地域のニーズを学び、地域のために活動する経験を3年間で100%にする。	・商品開発など既存の活動をメディアにPRするシステムを構築する。 ・地域のニーズを学び、地域のために活動したことを総合学科発表会で発表する。							総合学科 図書部(広報)
○環境整備と美化	○綺麗で安心な環境づくり	○校内が快適な環境となるよう整備点検に努め、ゴミの持ち帰りや分別をはじめ校内環境美化や整理整頓に取り組んだ生徒の割合を80%以上にする。	・定期安全点検を隔月で実施する。 ・さわやか清掃活動(校内外ボランティア活動)を前・後期1回実施する。							保健部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
-----------------------	--